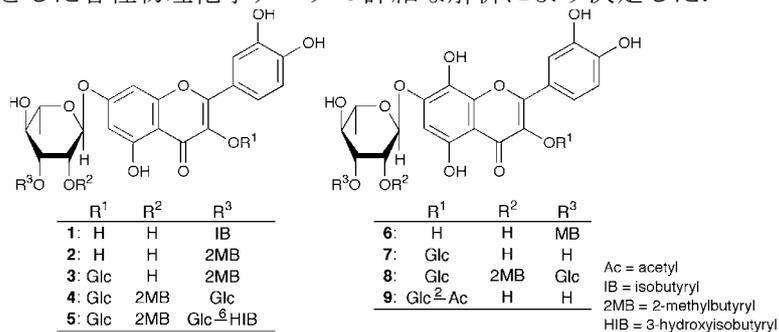


【目的】漢薬“石蓮花”(*Echevaria glauca**, 地上部)は、日本において糖尿病や高血圧の予防効果を期待した機能性食品素材として流通している。しかしながら、その薬理学的研究は殆ど報告されておらず、また含有成分についても未詳であったことから、その生物活性成分の探索研究に着手した。

【方法・結果】中国広西壮族自治区産“石蓮花”地上部のメタノール抽出エキスについて、ショ糖負荷ラットにおける血糖値上昇抑制作用を見出した。メタノール抽出エキスについて、溶媒分画後、順相シリカゲル、逆相 ODS カラムクロマトグラフィー及び HPLC を用いて繰り返し分離精製した結果、14 種の既知化合物を単離・同定するとともに、quercetin および gossypetin をアグリコンとする 9 種の新規アシル化フラボノール配糖体(1—9)を単離した。これらの新規化合物の構造は、NMR をはじめとした各種物理化学データの詳細な解析により決定した。



*基源植物については、現在確認を進めている。